

コミュニティセンターの利用状況について

① 吉祥寺東コミュニティ協議会	1 頁
② 本宿コミュニティ協議会	2 頁
③ 吉祥寺南町コミュニティ協議会	3 頁
④ 御殿山コミュニティ協議会	4 頁
⑤ 本町コミュニティセンター協議会	5 頁
⑥ 吉祥寺西コミュニティ協議会	6 頁

1. 吉祥寺東コミュニティセンター

1 施設概要

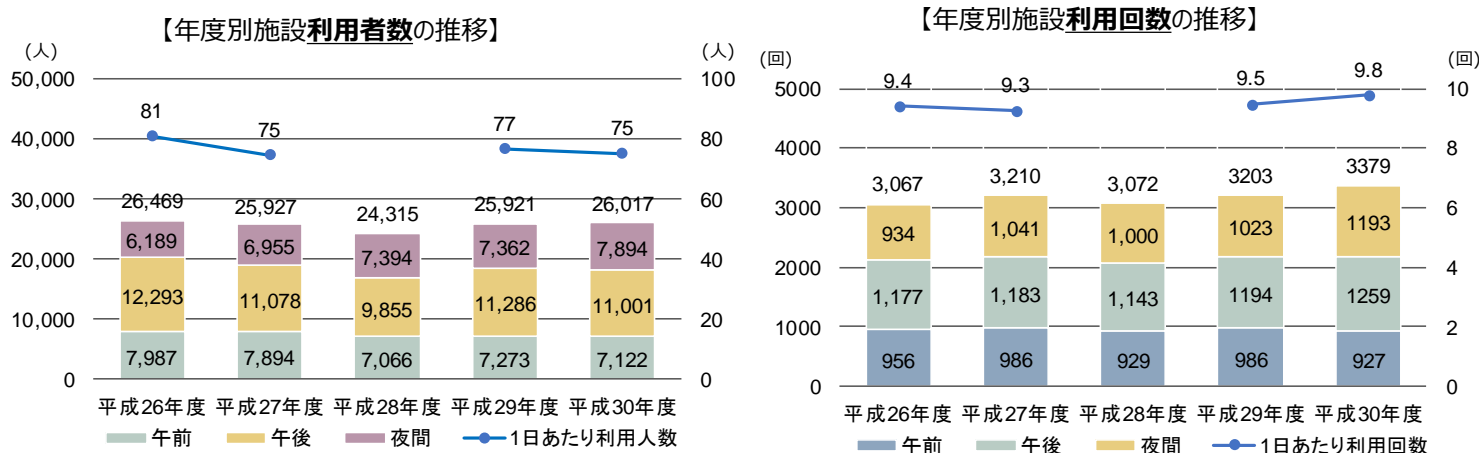
- 施設名 : 吉祥寺東コミュニティセンター
- 運営協議会名 : 吉祥寺東コミュニティ協議会
- 所在地 : 〒180-0002 武蔵野市吉祥寺東町1丁目12番6号
- 開館時間 : 午前9時30分～午後9時30分
- 事業開始・開設日 : 昭和53年4月22日

【所在地】

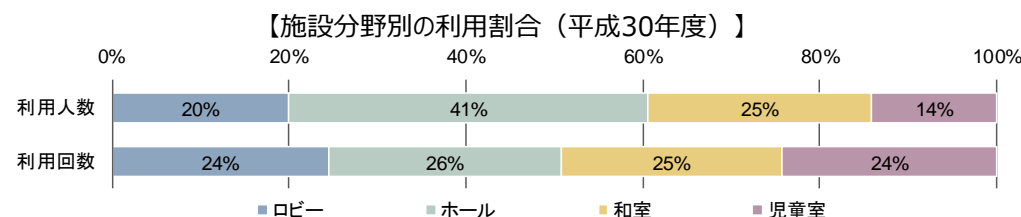


2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は26,017人であり、1日あたりの利用人数は75人（開館日数:345日）であった。過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）は若干であるが増加傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成30年度で3379回、1日あたり利用回数は9.8回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではいずれの施設（部屋）分野も同程度の割合であった。



全施設平均（平成30年度）
総利用者数：54789人
総利用回数：6220回
※ 朝晩山王にセビは休館期間ありのため集計



3 主な実施事業(平成30年度)

事業数：50
(主催：47、共催・協賛：3)

■ 事業（例）

<つつどい>

- 毎月開催。誰もが自由に参加して、対話する場。話題・テーマは身近なものから日本や世界に関わるものまで様々。

<新春餅つき大会と百人一首かるた大会>

- 市長はじめ多くの市議、地域小中学校の校長先生にお越しいただき、子どもたちだけではなく、大人も餅つき大会を楽しんだ。

■ その他、特徴的な事業

- (※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業（例）)
- 地域医療・福祉に関して、認知症への知識を深める講座を開催した。
- 地域防災に関して、神奈川県総合防災センターへの視察を実施した。
- 子育て・教育支援に関して、コミセンホールを提供して親子広場の開催、教育に関する有識者講演会の開催した。

／等

4 自己評価

【成果】

- 開設40周年記念事業について、各種事業（記念式典・祝賀会・トークセッション・コンサート・記念誌刊行）などを滞りなく終わることが出来た。

【課題・今後に向けて】

- 他協議会に比較して、多くの若年の構成員を擁しているが、「長いスパンで考えた世代交代の必要性」、「役員選出方法の見直し」等が懸案。
- 多岐にわたる世代が運営委員としてコミセン活動に携わることをより一層進めたい。
- 利用者の利便性向上には引き続き努めたい。

【自己点検・評価表の結果】

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	A	A	A	B	B	・評価項目⑤「協力員の十分な人数の確保」、⑩「広報誌以外の方法での広報」、⑬「コミュニティの活動への住民の積極的な参加」は改善。 ・⑪「住民総会の呼びかけの工夫」、⑭「住民総会への参加」の評価は下降。
②コミュニティ活動の活性化	A	A	A	B	A	・③「取り組みへの住民の満足度」は改善傾向。 ・②「要求・課題への対応」の評価は下降。
③コミュニティ活動のネットワーク化	A	A	B	B	-	・ウ「PTA」、ク「警察関係」、コ「防犯協会」、セ「高齢者福祉施設」とのネットワークは改善。
④利用しやすいコミュニティづくり	A	A	A	A	A	・⑤「窓口担当者同士の連携」は改善。
⑤適正な管理・運営	A	A	A	A	A	・②「協議会の会則や利用の決まりへの理解」は改善。

※ A.十分である B.ほぼ十分である C.どちらとも言えない D.やや不十分である E.不十分

2. 本宿コミュニティセンター

1 施設概要

- 施設名 : 本宿コミュニティセンター
- 運営協議会名 : 本宿コミュニティ協議会
- 所在地 : 〒180-0002 武蔵野市吉祥寺東町3丁目25番2号

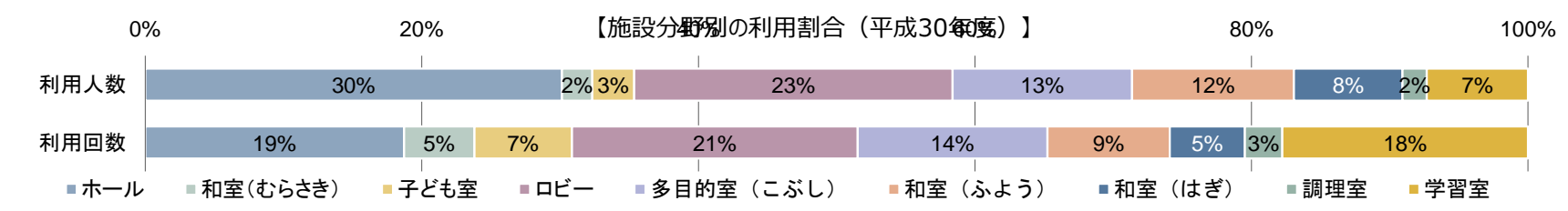
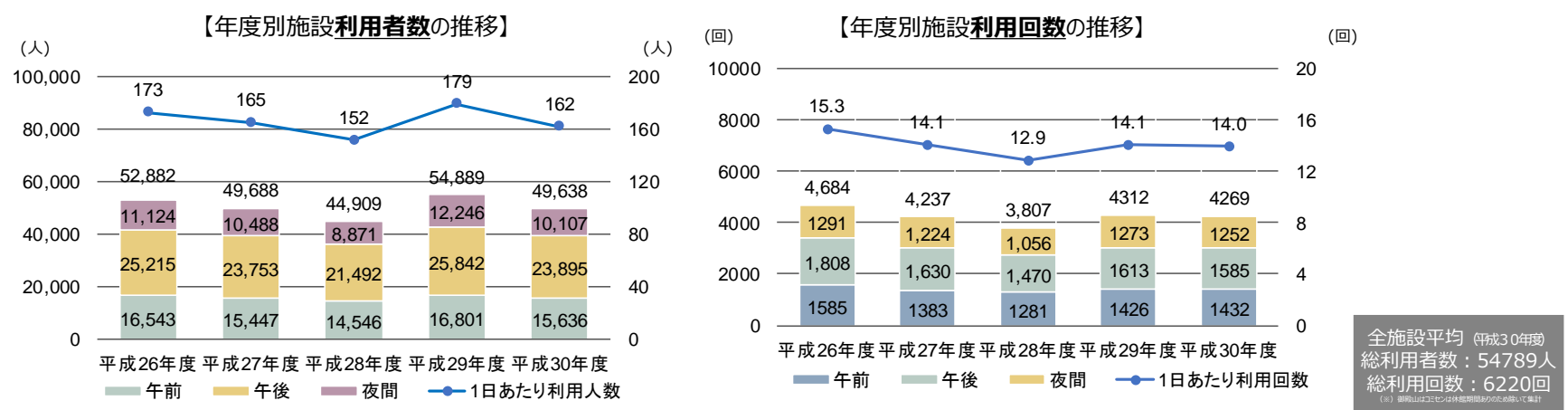
- 開館時間 : 午前9時～午後9時
- 事業開始・開設日 : 平成4年2月15日

【所在地】



2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は49,638人であり、1日あたりの利用人数は162人（開館日数:306日）であった。過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）は若干であるが減少傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成30年度で4269回、1日あたり利用回数は14.0回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、ホール、学習室が他に比べて高かった。



3 主な実施事業(平成30年度) 事業数：23

- 事業（例）
 <ダンスパーティー>
 ● サマーダンスパーティとニューイヤーダンスパーティを開催。市内全域、市外からも参加がありワルツ・ルンバ等を楽しんだ。
- その他、特徴的な事業
 (※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業(例))
 ● 地域医療・福祉に関して、「みんなで考えよう！認知症 地域で支え合うには？」をテーマに、認知症への理解促進と地域で支え合うために必要な取組について検討した。
 ● 地域防災に関して、東京臨海広域防災公園「そなエリア東京」での防災体験学習を実施した。
 ● 子どもたちを対象に、成蹊大学マジシャンズクラブと連携して、こどもたちのためのマジックショーを開催した。

4 自己評価

- 【成果】
- コミセン祭りやその他の自主事業について、運営委員のみが中心になり行ってきたが、最近だと地域の団体や協力員、学生のお手伝い手や参加の機会が増えている。
 - コミセン祭りなど、近年では多くの来訪者が訪れるようになってきている。
- 【課題】
- 運営委員の人員不足は課題である。人手が足りずに、一人当たりの負担が大きくなってきている。新たな運営委員・協力委員の確保が課題（協力的な利用団体の方には、協力委員や運営委員になってもらえるように積極的に声かけをしていく必要あり）
 - 地域の方々や利用団体などの更なる参加促進（事業への参加者から、企画・運営側に回る人・団体を増やしたい）
 - 運営委員が少ないことから、事業数の削減も視野に入れる必要がある。その上で、人気のある主催事業に注力する。

【自己点検・評価表の結果】

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	B	B	B	B	B	・②「運営委員・協力員への適切な説明」、③「各種行事の呼びかけへの工夫」は改善傾向。 ・④「運営委員会などの会合への呼びかけ」、④「運営委員の十分な人数の確保」、⑩「広報誌以外の方法での広報」⑩「住民総会の呼びかけは、工夫して行われているか」の評価は下降。
②コミュニティ活動の活性化	B	B	B	B	C	・④「協議会主催の独自の企画や事業」は改善。 ・①「協議会で話し合う機会」、②「要求・課題への対応」の評価は下降。
③コミュニティ活動のネットワーク化	B	A	B	B	-	・ケ「警察関係」、ケ「地元商店会」、コ「防犯協会」、シ「老人クラブ」、ス「赤十字奉仕団」、セ「高齢者福祉施設」は改善。 ・オ「小・中学校」「高校・大学」は下降。
④利用しやすいコミュニティづくり	A	B	B	B	B	・②「子ども連れやお年寄り、障害のある人の利用への対応」、③「利用者の苦情などへの適切な対応」、④「施設の利用方法等の工夫」、⑤「窓口担当者同士の連携」は改善。
⑤適正な管理・運営	A	A	A	A	A	・③「協議会の会則や利用の決まりの運営」は改善傾向。

※ A.十分である B.ほぼ十分である C.どちらとも言えない D.やや不十分である E.不十分

3. 吉祥寺南町コミュニティセンター

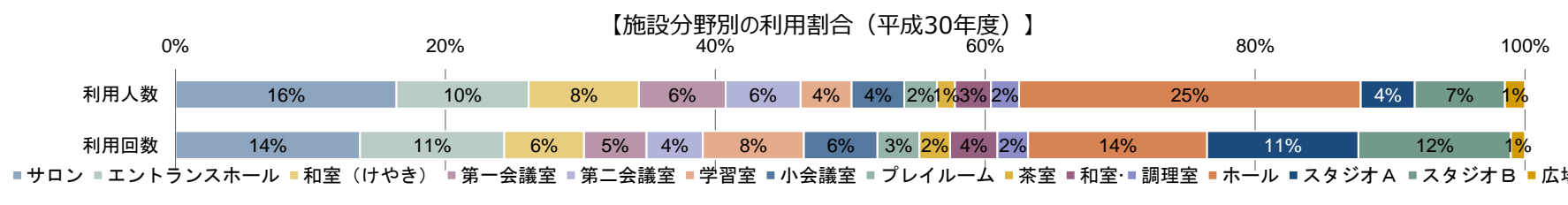
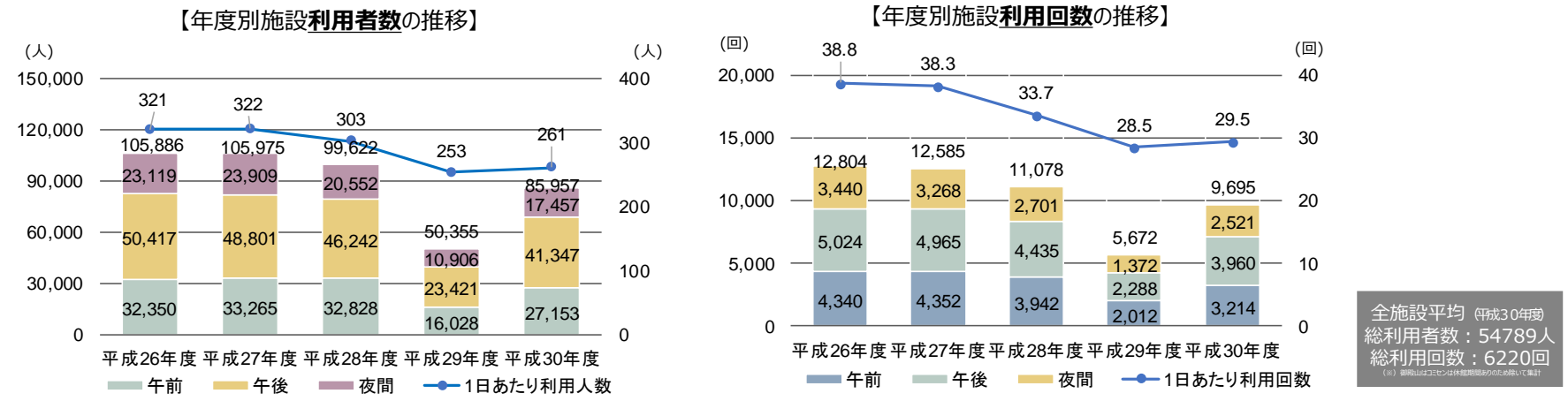
1 施設概要

- 施設名 : 吉祥寺南町コミュニティセンター
- 運営協議会名 : 吉祥寺南町コミュニティ協議会
- 所在地 : 〒180-0003 武蔵野市吉祥寺南町3丁目13番1号
- 開館時間 : 午前9時30分～午後0時30分・午後1時～午後5時
午後5時30分～午後9時15分
- 事業開始・開設日 : 昭和58年3月28日



2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は85,957人であり、1日あたりの利用人数は261。（開館日数:329日）であった。過年度と比較すると、利用数は下降傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成30年度で9,695回、1日あたり利用回数は29.5回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数の割合はサロン、ホール、スタジオが他と比べて高かった。



3 主な実施事業（平成30年度）

- 事業数：40** (主催：21、共催・協賛：19)
- **事業（例）**
 - ＜南町ふれあい企画＞
 - 気軽にコミセンへ来てもらうことが目的。「ふらっとカフェ（話を持ち寄り、お茶を飲みながらざっくばらんに話す場）」「卓球デー（体育大学の学生を講師として招き、年3回小学生からご年配の方まで多世代交流の場として開催）」を開催。
 - ＜コミュニティ講座＞
 - 興味を持った方が気軽に参加し、体験・経験できる場を提供することを目的としている。スキルアップではなく、きっかけづくりとしての講座となっている。「社交ダンスに挑戦」「初心者茶道講座」を開催。
 - **その他、特徴的な事業**
 - （※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業（例））
 - 地域医療・福祉に関して、「南町健康増進講座」を開講した。
 - 地域防災に関して、南町福祉の会・青少協と連携して、防災訓練や防災ウォーキングなどを実施した。
 - 子育て・教育に関して、南町子育て隊を組織し、南町の子育て支援を実施した。また、「ゆとりえ」と共催で高齢者と乳幼児親子の交流機会や、健康づくり支援センターと共催で「ママのための健康講座」を開講した。 / 等

4 自己評価

- 【成果】**
- 年間にわたって事故等がなく、安全な施設運営ができた。
 - 新たな協議会メンバーが個性を発揮して活躍できた。
 - 「タンゴ音楽会」をはじめ、新たな事業を実施することができた。
 - コミセンニュースの発信（配布数は十分であるが、読まれているかは不明）
- 【課題】**
- 他のコミセンとの連携が課題がある。
 - コミセンに対する認知度の向上が課題がある（広報について課題がある）。
 - 人手不足であり、一部の人に負担が集中している。
 - 施設運営について話し合う場・機会の充実は必要。

【自己点検・評価表の結果】

総合評価	近年の傾向					
	H30	H29	H28	H27	H26	
①住民参加によって開かれた運営	B	B	B	B	B	・④「運営委員は十分な人数が確保」⑤「協力員の十分な人数の確保」、⑥「運営委員・協力員確保のための努力や工夫」、⑦「初めての運営委員・協力員への適切な説明」、⑧「コミュニティ活動の住民への周知」は改善。 ・①「運営委員会などの会合への呼びかけ」②「各種会合への十分な出席」、③「運営委員会の決定事項」、④「住民総会への十分な参加」⑤「文化祭など各種行事の呼びかけ」⑥「文化祭など各種行事への参加」⑦「コミュニティの活動に、住民の方々は積極的に参加」の評価は下降。
②コミュニティ活動の活性化	B	B	B	B	B	・③「取り組みに対する住民の満足度」、④「協議会主催の独自の企画や事業」の評価は下降。
③コミュニティ活動のネットワーク化	B	B	B	A	-	・エ「保育園・幼稚園」、オ「小・中学校」、キ「地元自治会・町内会」、ケ「防犯協会」、ス「赤十字奉仕団」は改善。 ・ア「地域社協」、イ「青少協地区委員会」、ウ「PTA」、ク「警察関係」、サ「消防関係」、シ「老人クラブ」、セ「高齢者福祉施設」、ソ「障害者施設」の評価は下降。
④利用しやすいコミュニティづくり	B	B	A	A	B	・②「子ども連れやお年寄り、障害のある人の利用への対応」は改善。 ・③「利用者の苦情などへの適切な対応」、④「施設の利用方法等の工夫」、⑤「窓口担当者同士の連携」の評価は下降。
⑤適正な管理・運営	B	B	B	A	B	・③「協議会の会則や利用の決まり」、④「個人情報の保護」、⑤「計画的・効率的な事業」、⑥「予算」、⑦「予算の使い方のチェックや公表」、⑧「コミュニティセンターの管理運営」の評価は下降。

※ A.十分である B.ほぼ十分である C.どちらとも言えない D.やや不十分である E. 不十分

4. 御殿山コミュニティセンター

1 施設概要

- 施設名 : 御殿山コミュニティセンター
- 運営協議会名 : 御殿山コミュニティ協議会
- 所在地 : 〒180-0005 武蔵野市御殿山1丁目5番11号

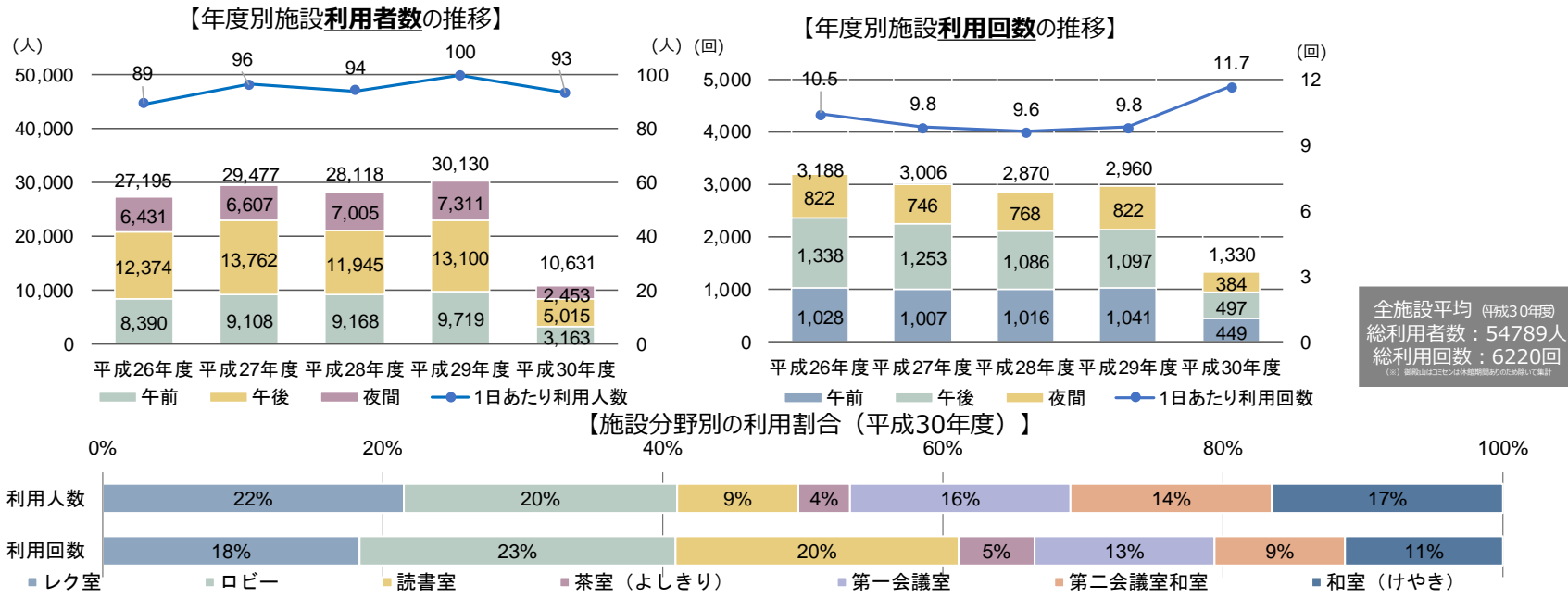
- 開館時間 : 午前9時30分～午後8時45分
- 事業開始・開設日 : 昭和57年2月4日

【所在地】



2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は10,631人であり、1日あたりの利用人数は93人（開館日数:114日）であった。休館期間を鑑みて過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）は若干であるが増加傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成30年度で1330回、1日あたり利用回数は11.7回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではロビー、読書室、レク室の利用回数が他と比べて高かった。



3 主な実施事業(平成30年度)

事業数：46
(主催：46、共催・協賛：-)

- 事業（例）
 - <お花見の会>
 - 井の頭公園の桜を鑑賞するお花見の会を開催した。
 - <健康麻雀>
 - 毎月1回、エリアの方々の交流の場として麻雀を楽しむ会を開催した。
- その他、特徴的な事業
 - (※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業（例）)
 - 利用団体のつながりづくりに関して、コミセンを利用する11団体20名の参加によって、コミセンの運営に対する意見や要望等を聴取する「利用者懇談会」を実施した。
 - 地域住民の交流に関して、毎月第3土曜日に「ロビーでカフェ」を開いている。
 - 地域住民の交流に関して、運営委員がおひなさまを持ち寄り、お菓子や甘酒、コーヒーなどを囲んで懇話する「おひなさまカフェ」を開催した。

／等

4 自己評価

※平成30年度は改装に伴う休館により、十分な事業実施ができなかったため、下記成果及び課題は平成29年度のものに記載している。

【成果】

- 運営委員・協力委員が助け合って活動することができた。
- 利用者がより一層利用しやすいよう、施設の利用規制の緩和を行った。
- ホームページを充実させ、利用者に向けた情報発信に力を入れた。
- 1年間の利用者が増加した。

【課題】

- 行事の準備に関して、やや後手に回ってしまい余裕を持って進めることができなかった。
- 運営委員の人員確保について、十分な議論ができていない。今後は、特に窓口担当者の人員数を確保する必要がある。

【自己点検・評価表の結果】

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	B	B	B	A	B	・①「運営委員会などの会合への呼びかけ」②「運営委員会などの各種会合への出席」④「運営委員会の決定事項などについて、全委員に伝わっているか」の評価は改善・ ・⑤「協力員は十分な人数が確保」⑥「運営委員・協力員確保のための努力や工夫」⑩「広報誌以外の方法での広報は十分」⑪「文化祭など各種行事の呼びかけの工夫」⑫「文化祭など各種行事への参加」⑬「コミュニティの活動は、住民への周知」⑭「コミュニティの活動に、住民の方々は積極的に参加しているか」は下降。
②コミュニティ活動の活性化	B	A	B	A	A	・①「地域住民の要求や課題について、協議会で話し合う機会」、②「要求や課題について、何らかの取り組みを行ったか」、④「協議会主催の独自の企画や事業」は下降。
③コミュニティ活動のネットワーク化	A	B	A	A	-	・ウ「PTA」、ク「警察関係」、ケ「地元商店会」、サ「消防関係」、ソ「障害者施設」とのネットワーク化が改善 ・オ「小・中学校」、セ「高齢者福祉施設」が下降。キ「地元自治会・町内会」のネットワーク化は本年度の下降が顕著。
④利用しやすいコミュニティづくり	B	A	A	A	A	・②「子ども連れやお年寄り、障害のある人の利用に対する対応」③「利用者に不快な思いをさせた場合や苦情などに適切に対応」④「施設の利用方法等で工夫」⑤「窓口担当者同士の連携」が下降。
⑤適正な管理・運営	A	A	A	A	A	・③「協議会の会則や利用の決まりを日頃から気をつけて運営」が改善。 ・①「やりがいや楽しさを実感できるような協議会」が下降。

※ A.十分である B.ほぼ十分である C.どちらとも言えない D.やや不十分である E. 不十分

5. 本町コミュニティセンター

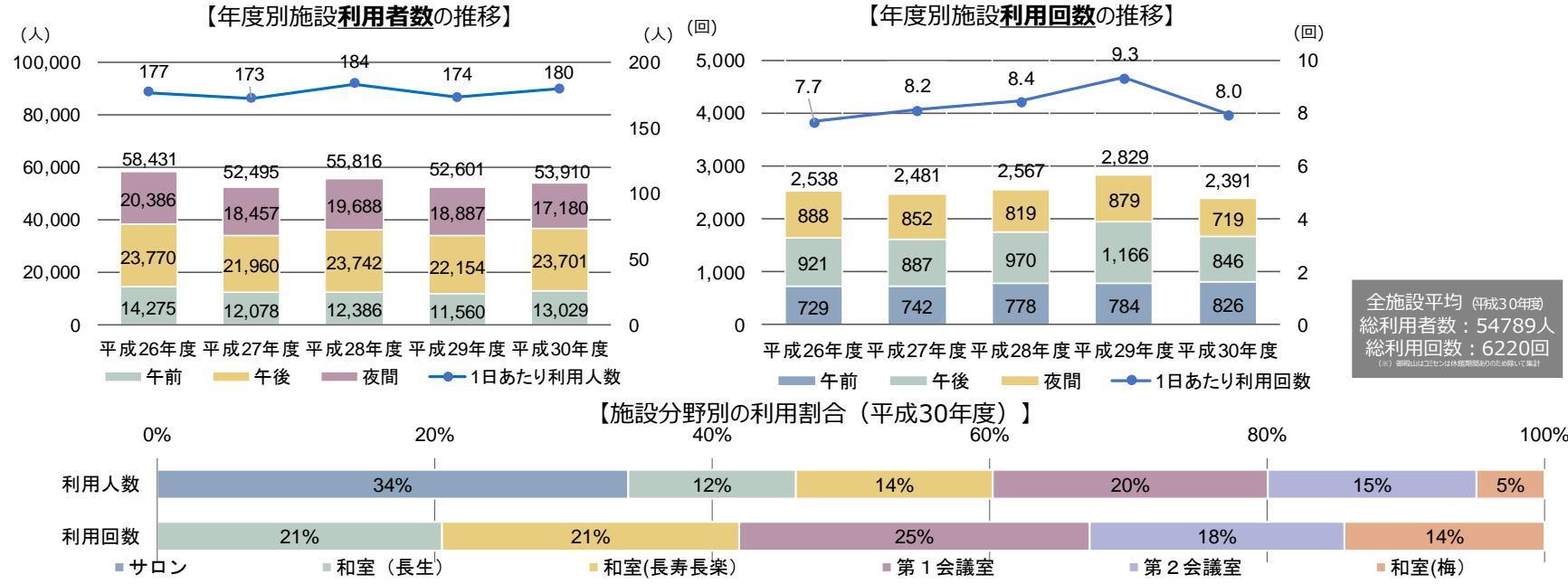
1 施設概要

- 施設名 : 本町コミュニティセンター
- 運営協議会名 : 本町コミュニティセンター協議会
- 所在地 : 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町1丁目22番2号
- 開館時間 : 午前9時30分～午後9時15分
- 事業開始・開設日 : 昭和54年6月16日



2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は53,910人であり、1日あたりの利用人数は179人（開館日数:300日）であった。過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）は若干であるが下降傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成30年度で2391回、1日あたり利用回数は8.0回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数では第1会議室と和室が他と比べて高かった。



3 主な実施事業(平成30年度) 事業数：62 (主催：62、共催・協賛：-)

- 事業（例）
 - <まちをきれいに>
 - 毎月1回、吉祥寺駅東側からコミセン周辺の清掃を行っている。
 - <わくわく本町サロン>
 - 数字盤・紙芝居・体操等に取り組み、高齢者が楽しく仲間との交流をふかめながら、新しいことにもチャレンジする「わくわく本町サロン」を定期的実施した。
 - <ふれあい講座>
 - 横になった状態で、各自の体力・体調に合わせてゆっくりとした動きで体をほぐし、筋力をつける体操を行う「ふれあい講座」を定期的実施した。
- その他、特徴的な事業
 - (※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業（例）)
 - 地域住民の方に、日ごろ疑問に思っていることや市政への要望を議論してもらう「市民と市長のふれあいトーク」を開催した。
 - 地域環境に関して、有識者を招いて本町コミセン周辺の環境浄化についての話を伺い、安心安全なまちづくりを地域住民とともに考える「地域を知る会」を開催した。／等

4 自己評価

- 【成果】**
- 過年度と比較して、地域住民への来館の呼びかけについて積極的に取り組むことができた。特に、小中学校への呼びかけに力を入れた。
 - 「わくわく体操」など新事業を立ち上げ、地域住民からも好評を得ている。
 - よりよい窓口業務ができるよう、「窓口会議」を実施して問題点等を話し合うことができた。
 - 「使用のきまり」を現状に合わせて改訂したことで、利用者への案内がよりスムーズにできるようになった。
- 【課題】**
- 運営委員の人員が十分でない。また、運営委員の中でも定例会議に参加する人が固定化している。
 - 運営委員及び協力委員では、建物の管理について対応しきれなかった。
 - 若い人のイベント等への参加が少なかった。広報活動により力を入れる必要がある。
 - 街づくり協議会との連携が十分に取れていなかった。

【自己点検・評価表の結果】

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	B	B	B	B	B	・④「運営委員は十分な人数が確保」、⑤「協力員は十分な人数が確保」⑨「広報誌の発行部数は適当か」⑩「住民総会への参加は十分」は改善。 ・⑥「運営委員・協力員確保のための努力や工夫」、⑤「コミュニティの活動は、住民の方々に広く知られていると思うか」は下降。
②コミュニティ活動の活性化	B	C	B	C	B	・①「地域住民の要求や課題について、協議会で話し合う機会」②「その要求や課題について、何らかの取り組み」③「取り組みは、住民の方々に満足されたと思うか」④「協議会主催の独自の企画や事業は、十分か」は改善。
③コミュニティ活動のネットワーク化	B	B	B	B	-	・ア「地域社協」イ「青少協地区委員会」ウ「PTA」オ「小・中学校」ク「警察関係」サ「消防関係」ス「赤十字奉仕団」とのネットワーク化は改善。 ・カ「高校・大学」ケ「地元商店会」シ「老人クラブ」セ「高齢者福祉施設」は下降。
④利用しやすいコミュニティづくり	B	A	A	B	B	・②「子ども連れやお年寄り、障害のある人の利用に対する対応」、⑤「窓口担当者同士の連携」は下降。
⑤適正な管理・運営	A	B	A	A	A	・②「協議会の会則や利用の決まりを十分に理解」、③「協議会の会則や利用の決まりを日頃から気をつけて運営」、⑤「事業の計画的・効率的な運営」、⑥「予算の適切な使用」、⑧「コミュニティセンターの管理運営に関するきまり・法令等の順守」は改善。

※ A.十分である B.ほぼ十分である C.どちらとも言えない D.やや不十分である E. 不十分

6. 吉祥寺西コミュニティセンター

1 施設概要

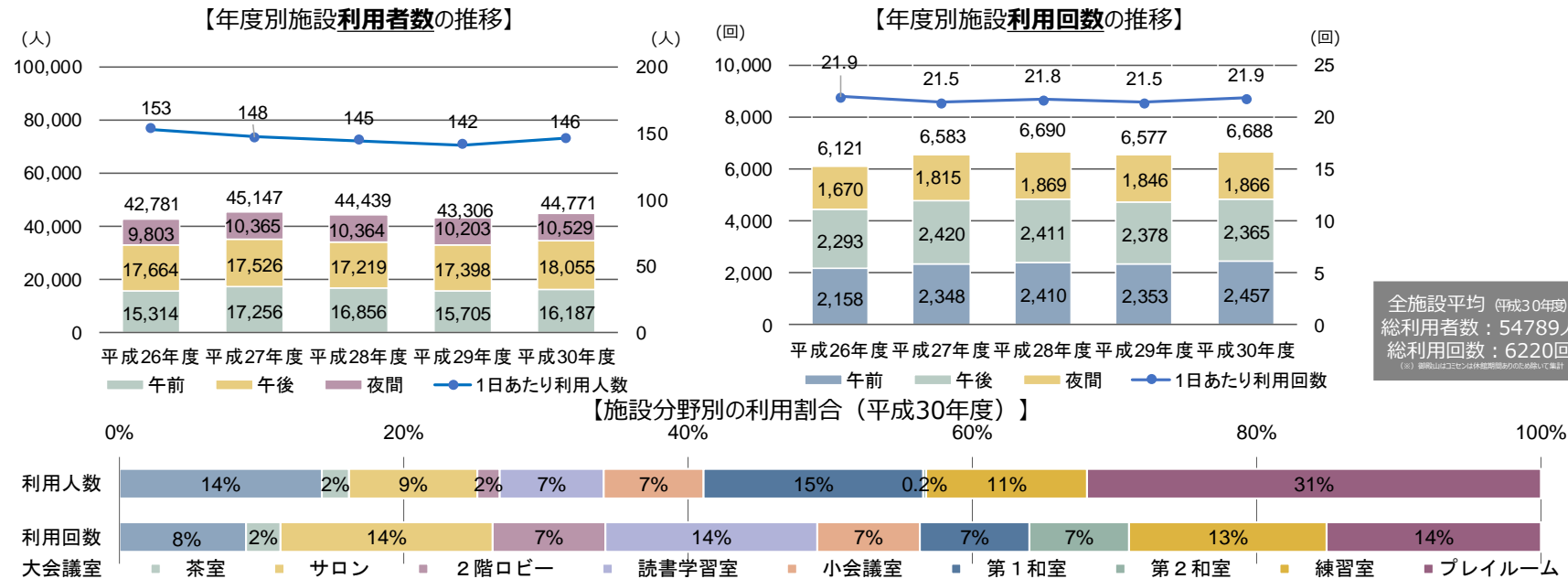
- 施設名 : 吉祥寺西コミュニティセンター
- 運営協議会名 : 吉祥寺西コミュニティ協議会
- 所在地 : 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町3丁目20番17号
- 開館時間 : 午前9時00分～午後8時50分
- 事業開始・開設日 : 平成元年2月18日

【所在地】



2 施設の利用状況

- 平成30年度の利用者数（総数）は44,771人であり、1日あたりの利用人数は146人（開館日数:306日）であった。過年度と比較すると、過去3年間の利用者数（総数）は若干ではあるが、増加傾向にある。
- 利用回数（総数）は平成30年度で6688回、1日あたり利用回数は21.9回であった。
- 施設（部屋）分野別の利用割合をみると、利用回数ではサロン、読書学習室、プレイルームの利用割合が他と比べて高かった。



3 主な実施事業

事業数：105

（主催：105、共催・協賛：-）

- 事業（例）
 - ＜井ノ頭通り美化活動＞
 - 成蹊通りの交差点からコミセン入口の交差点までの井ノ頭通りの街路樹植え込みにおいて、月に2回、花の手入れとゴミ拾いを行った。
 - ＜あそぼうよ＞
 - 小学校低学年の遊び場として立ち上げた事業で、餅つき等を行った。
 - ＜あるこうかい＞
 - 人や自然、街並等との新しい出会いを楽しみ、語らいながら歩くイベントとして「あるこうかい」を実施した。年4回、約15,000歩を目途に計画している。
 - ＜あじさいひろば＞
 - 吉西福祉の会（地域社協）との共催事業で、高齢者の居場所と高齢者のつながりづくりを行う取り組みを行った。
- その他、特徴的な事業
 - （※地域課題に関連した事業及び他団体との連携事業（例））
 - 地域住民にコミセンに親しんでもらうことを目的に、マスターが選んだ銘柄のコーヒーを提供する「ホっとcafé」を開催した。

4 自己評価

【成果】

- 30周年行事に向けた準備の中で、運営委員の結束が強まった。
- 「窓口業務マニュアル」の改訂など、利用しやすいコミセンづくりに向けた取り組みを実施できた。
- 小中学校との連携が以前より密になったことで、生徒や保護者がコミセンの活動に対し協力的になった。
- 市報やポスターによるPRの効果で、徐々に取り組みが広がりを見せていると感じる。

【課題】

- 運営委員の担い手不足が深刻だが、有効な策を講じられていない。また、運営委員の高齢化も課題となっている。
- 災害時のコミセンの立場を自主防災組織と意見交換によって明確にするなど、関係団体との調整・連携が必要である。
- 地域のアパート、マンション等への新規流入の住民に対して、働きかけが不足していた。

【自己点検・評価表の結果】

総合評価	H30	H29	H28	H27	H26	近年の傾向
①住民参加によって開かれた運営	B	B	B	B	B	・①「運営委員会などの会合への呼びかけは十分ですか」、②「住民総会の呼びかけは、工夫して行われていますか」④「文化祭など各種行事への参加は十分」は改善。 ・⑤「運営委員・協力員確保のための努力や工夫」、⑥「広報誌以外の方法での広報は十分」⑦「コミュニティの活動は、住民の方々に広く知られていると思うか」は下降。
②コミュニティ活動の活性化	B	B	B	B	B	・①「地域住民の要求や課題について、協議会で話し合う機会を持ちましたか」③「その取り組みは、住民の方々に満足されたと思います」は下降。
③コミュニティ活動のネットワーク化	B	B	B	B	-	・コ「防犯協会」ス「赤十字奉仕団」は改善。 ・ウ「PTA」カ「高校・大学」ケ「地元商店会」サ「消防関係」シ「老人クラブ」ソ「障害者施設」は下降。
④利用しやすいコミュニティづくり	B	A	B	A	B	・①「利用者の立場に立って、気軽に立ち寄り、気持ちよく利用できるよう、気をつけていますか」改善。 ・②「子ども連れやお年寄り、障害のある人の利用に対する対応」、③「利用者に不快な思いをさせた場合や苦情などに適切に対応していますか」④「施設の利用方法等で工夫」⑤「窓口担当者同士の連携」は下降。
⑤適正な管理・運営	B	B	B	A	B	・④「個人情報の保護について、適切に対応していますか」⑥「予算は適切に使われていますか」は下降。

※ A.十分である B.ほぼ十分である C.どちらとも言えない D.やや不十分である E. 不十分